「路傍に咲くタンポポ」

服　部　勝　弘

ふと足元に目をやると、今年も道端にタンポポが黄色い花弁を広げて明るく元気に咲いている。

今、ウクライナの人々はロシアによる突然の不当な侵略で攻撃にさらされて、多くの人々が命と財産を奪われている。連日のウクライナの戦闘現場のニュース報道に胸が痛み、プーチン大統領の人道に背く行為に激しい憤りと悲しみ、憎悪の念を禁じ得ない。

しかし、自然界では今年も路傍に多くのタンポポの花が咲き、この花を見るとウクライナの人々が戦火の中、必死に逃げて、逞しく生きている姿を思い、希望の光を感じる。

プーチン大統領によるロシアの不当な侵略戦争に、もしウクライナが屈するようなことになると、世界中で同じような戦争が勃発することが懸念される。今、世界は一触即発の危機にある。

中国と台湾問題、南北朝鮮をめぐる対立。イラン、イラク、アフガニスタン等の中東に於ける紛争、アフリカ諸国の民族対立、ミャンマーの国内問題等々、戦争を起こす火種は世界中にあり、第三次世界大戦がいつ勃発するかもしれない。

こんな時、国連の果たす役目は重大であるが、その機能は著しく低下し十分に発揮されていない。大国の軍拡競争は歯止めがかからない。

今や、武力による圧力で世界平和は築けない。こんな時、倫理観の欠如した世界各国の指導者は路傍に咲くタンポポの花に目を向けて、自ら冷静になり頭を冷やして、世界の平和と人々の幸せを守るためにどうしたらよいか、真剣に考えて欲しい。戦争で得るものは何もない。多くの人々は苦しみ、悲しみ、財産など全てを失う。

ウクライナの人々が安眠できる平和が訪れる日を願い、私は路傍に咲くタンポポの花をじっと見つめる。